いなべの夜に

Night in Inabe

2022 年 1 月にオープンした「メゾン ヒガシマチ」は、写真と珈琲と本を扱う 3 つの店舗が集まってできた新しいカタチの店。阿下喜の夜を灯す明かりが、また 1 つ増えた。

メゾン ヒガシマチ

三重県いなべ市北勢町阿下喜 2696-3
営業時間：10 時〜17 時
定休日：店舗により異なる

旅の終着駅が、旅のはじまり

阿下喜（あげき）のまち

古きよき時代の残り香

Ageki still wafts of that bygone boomtime

三岐鉄道北勢線の終着駅「阿下喜」。三重県の最北端・いなべ市の中心地として、市役所や病院、ホテルが集まり、今もその利便性から、商業が栄え、多くの人が暮らす町だ。古くは「宿場町」、「鉱山の町」として栄え、自然資源を求めたくさんの人たちが訪れ、今では想像できないくらいの賑やかさを見せていた。その当時の名残とも言える立派な建築物が随所に見られる阿下喜という町は、歩くだけで、古きよき時代の香りが漂ってくる。

制作スタッフ

写真
浦田貴秀（鈴麓寫眞）
※ P38、P44、P45 の一部写真を除く

イラスト
川瀬知代（表紙、P34-37）
れのすか（P40-41）

編集・デザイン
加藤淳也（PARK GALLERY）

翻訳：KEN 株式会社

企画制作：グリーンクリエイティブいなべ
発行：いなべ市

いなべ、
暮らしを旅する。

都会の喧騒の中でふと見た足元が、日本中のいろいろな町につながっていると気づいたある日。また旅がしたいと思った。
インターネットの普及は、世の中を便利にしたけれど、情報だけでは、あの森の澄んだ空気や、木や土から感じる手ざわり、命をいただくようなあの食の感動は、きっと届けてくれない。

時代の変化の中で少しずつ「自分らしさ」というものを考えるようになった。自分らしい格好。自分らしい立ち振る舞い。自分らしい生き方。些細なことでもいいから「これこそ自分だ」と言える瞬間がほしいと思う。遠回りしてもいいから、流されることなく、自分の足で進む。自分の感覚で選ぶ。そんな旅をしてみたい。誰かに用意されたコースではなく、手を伸ばして、自分で掴んだ先に向かう、まるで冒険家のような旅をし、名前のない美しい景色にただただ見惚れていたい。

— いなべ、暮らしを旅する。

この本で紹介するのは「いなべ」という自然豊かな町を舞台に、自分らしく生きる人たちの暮らしと、まなざし。有名な観光地や三つ星レストランの情報はないかもしれないが、いなべにしかない美しい景色や時間が描かれている。少しの遠回りもひと手間も愛しいと思える、自分らしい“旅”を見つけるためのガイドブック。もしこの本を読んで、少しでも心が動いたのなら、ぜひ自分の手でそれを確かめにきてほしい。

三岐鉄道 三岐線・北勢線

いつの時代も変わらずに、そこに暮らす人たちや旅人を運んできた黄色い電車に揺られ「いなべ」の町へ。都会から自然へと彩られる車窓を眺めると、胸が高鳴った。

1000 年の風景

Thousand-year vista

いなべを鮮やかに彩る四季。冬には鈴鹿山脈の雪化粧。春には幻想的に輝く梅に桜。力強く芽吹く新緑や、黄金色に輝く麦畑が夏の香りを運べば、風や水さえも彩られる。そして秋の紅葉。1000 年前の庭園が残るという鳴谷山聖宝寺の、あたり一面を染める境内の紅葉の美しさに、思わず息を呑んだ。

鳴谷山 聖宝寺

三重県いなべ市藤原町坂本 981

山を守る“狛猿”

The "Koma Monkey," mountain guardian

聖宝寺の麓にある鳴谷神社では、狛犬ならぬ「狛猿」が参拝客を迎えてくれる。「神猿（まさる）」とされることから「魔が去る」「勝る」と縁起がよい。日本では古くから猿が山の守り神とされることが多いが、対になった狛猿は珍しい。写真は雄猿。向かいには子猿を抱きかかえた母猿が鎮座する。

鳴谷神社

三重県いなべ市藤原町坂本 83

暮らしに寄り添う山々

A life embraced by mountains

いなべの人たちの暮らしには、いつだって「山の風景」が寄り添う。その眺望はもちろん、山からの様々な自然資源は、たくさんの豊かさをもたらしてきた。いなべの象徴とも言える花の百名山・藤原岳。そして開放的な尾根が美しい竜ヶ岳。山と向き合うことが「自分らしさ」へとつながっていく。

写真は初級者でも中級者でも楽しめる竜ヶ岳の頂上からの景色。平原が広がり、パノラマの風景が楽しめる。

竜ヶ岳

宇賀渓観光案内所 竜のコバ

三重県いなべ市大安町石榑南 2999-14
TEL：0594-78-3737

手を伸ばせば届く距離に

Getting close enough to reach out and touch

遠くに見える鈴鹿山脈。足元で息づく草花。呼吸や体温。人とのつながり。手を伸ばせば届く距離で営まれる、いなべの暮らし。どんなやり方が正しいのか、ではなく、自分が何をしたいのか。そんな会話を繰り返しながら今日も、誰かを喜ばせる「おいしい」や「たのしい」が生まれてくる。

自家製の酵母と安心の素材で「自分らしさ」を追求するヤマネコベイク。こだわりのパンは週に1度、古民家の玄関先で販売される。ていねいに、でも自由に焼かれた個性溢れるパンからは、店主の「好き」が伝わってくる。瓶に詰められて並ぶのは、様々な種類の酵母。その日のパンの、味や香りの決め手になる。

ヤマネコベイク

三重県いなべ市北勢町阿下喜 2599-8
営業日：第1・3日曜、第2・4水曜
営業時間：11時〜16時
※ 時期により変更あり

長い旅の途中

A long journey, with no destination in sight

いなべに移り住む人たちが増えている。新しさや便利さに固執せず、少し時間を要してでも古くて長く使えるものを受け継ぎ、その「手間」さえも楽しむ人たち。偶然の出会いや人とのつながりが「旅」を豊かにするように、彼らもまた、出会いやつながりで、自分たちの「居場所」を見つけていく。

名古屋から移住し、衣服ブランド「toi designs（とわでざいん）」のアトリエをオープンする夫婦。衣食住に関わる様々な職業を経て、得てきた知恵と技を集約し、古い蔵を自分たちの手で再生。市内外の人たちの交流の場として、衣服にとどまらず、暮らしの循環や大切さを共有していく。

忘れてはいけないこと

Not to be forgotten

いなべの「食」の魅力の１つに、環境の豊かさがある。自然や作り手と、それを食べる人たちの距離が近く、一緒に旬を楽しみ、お互い感謝の気持ちを忘れない。かつてあたりまえだったことが「特別」になってしまった時代に、忘れてはいけないことを思い出させてくれのるが、いなべの「食」を巡る旅。

化学肥料や農薬を使わない自然農法で大豆を育て、日本の食文化「豆腐」を作り続け、いなべの豊かな「食」を下支えする工房がある。そこで作られる豆腐の名前は「縁（えにし）」。そのおいしさが、新たな縁を結ぶ。

豆腐工房「安心食品の店」

三重県いなべ市大安町石榑南 432-3
TEL：0594-78-4102
営業時間：10 時～ 18 時
定休日：日曜

世代がつなぐ

Bridging generations

いなべの特産品の１つに「お茶」がある。山が恵む「湧水」と、地域特有の寒暖差で育まれるコクの深い石榑（いしぐれ）茶だ。産地の鈴鹿山脈・石榑峠の麓には 100 年以上の歴史を重ねた茶畑や茶屋が並び、栽培から製造、販売までを一貫して行っている。

まさに温故知新。新しいことに挑戦できるのは伝統があるからこそ。石榑屈指の老舗「岡製茶」を継いだ４代目の岡記善さん。毎日の暮らしに届く「お茶」は、100 年経ったいまも変わらず、ていねいに育まれる。

岡製茶

三重県いなべ市大安町石榑南 916
TEL：0594-78-0054
営業時間：8 時～ 19 時

全国的に高齢化が問題視される中、石榑地区では世代交代が行われ次々と新しい風が吹いている。「お茶をもっと気軽に楽しんでほしい」と話すのは「マル信緑香園」の伊藤典明さん。2022 年にはここ石榑の地で、新たなプロジェクトをスタートさせる。

マル信緑香園

三重県いなべ市大安町石榑南 2225-2
TEL：0594-78-0027
営業時間：9 時～ 19 時

職人の息遣い

In the company of the artisans

いなべの職人たちに共通する感覚が「自然と暮らしの調和」。伝統文化を代々受け継ぐ職人たちはもちろん、食文化を支える農家、シェフや菓子職人、様々な技をもって暮らしを彩る気鋭のクリエイターやアーティストにも通じている。いなべでは、その息遣いを、町のいたる所で感じることができる。

上木食堂
三重県いなべ市北勢町阿下喜 2057
TEL：0594-82-6058
営業時間：ランチ 11 時半〜15 時
ディナー 17 時半〜22 時
定休日：水・木曜（臨時休業あり）

建具職人として組子細工を主に木工芸品を制作している木村修さん。いなべを愛する職人の 1 人だ。工房を展示室として開放しながら、木の繊細な特性を活かした作品を 90 歳を目前にした今も作り続けている。中でも人気なのは八角形にデザインされたお盆。縁起の良い形と美しい木の色彩、木目が、世代を超えて、いなべのテーブルを飾る。

取扱店：gallery & shop 岩田商店
三重県いなべ市北勢町阿下喜 1051-10
問い合わせ：0594-41-5220

旅の疲れを癒す

Repose from the rigors of the journey

三重県きっての温泉地・湯の山をはじめ、長島、四日市、鈴鹿など、いなべ周辺に点在している温泉地まで車で足を伸ばすのも良いが、登山や町歩きを楽しんだ後、その足ですぐに行けるいなべの温泉やサウナという選択肢も悪くない。いなべに暮らす人たちが愛する湯で、旅の疲れを、しっかり癒す。

例えばいなべの中心にある「阿下喜温泉」。三岐鉄道の終着点「阿下喜駅」から歩いて行けることもあって、地元の人たちだけではなく観光客にも親しまれる温泉。人気の露天風呂やサウナは、みんなの憩いの場だ。

阿下喜温泉 あじさいの里

三重県いなべ市北勢町阿下喜 788

TEL：0594-82-1126

営業時間：11 時〜 20 時

名前のない景色

Unnamed vistas

いなべを旅しているとよく出会う、
自然の織りなす名前のない景色。
自分らしい旅とは、ガイドブックに載らない、
そんな名前のない美しい景色に
心を奪われることなのかもしれない。

いなべの畑から

From Inabe fields

HATAKEYA × KOZZO

2021 年のある日、いなべの地に移り住み、季節の野菜を育てながら暮らしている夫婦のもとに 1 通の手紙が届く。送り主は名古屋の有名イタリアンで長年にわたり腕を振るってきたシェフの小泉宏生氏。自然に寄り添いいなべの暮らし、そこで育まれる新鮮な野菜に惚れ込んだ小泉氏が辿り着いたのが、鈴鹿山脈の麓で農園を営む「HATAKEYA」の 2 人だった。

アフリカでの暮らしから「自然と共生する大切さ」を感じ、自身の農業へ取り入れている川﨑亮太・麻里夫婦による HATAKEYA 。そんな彼らに会いたいと願った理由は、この地に根を下ろし、レストランを開くためだった。いなべに暮らし、理想の食材を探求する。生産者の思いに寄り添いながら旬の食材に触れ、料理で町の人たちを喜ばせたい。その想いが、彼らをつなげた。

畑に立つと 4 人の話は止まらない。土の話、収穫の喜び、旬の野菜の個性や味わいと、お互いの視点と経験を持ち寄り語り合う。自然と向き合いながら作ることも食べることも楽しむ。そんな 2 組が大切にしているのは、“自分らしさ”。そして、人とのつながりや感謝の気持ちを忘れないということ。そんな思いを抱え、今日もそれぞれの技で、いなべの食の魅力を伝えていく。

小泉宏生さん（KOZZO オーナーシェフ）、川﨑亮太さん・麻里さん（HATAKEYA）、小泉まゆみさん（KOZZO ソムリエ）

自分らしく生きる術

Living true

森にひっそり佇むのは、家族で手作りの暮らしを楽しみながら営む小さなカフェ。そこで腕を振るう真紀さんの手料理が絶品だ。夫で猟師の佳弘さんによる「鈴原山肉店」の鹿肉料理を中心に、妹が焼く自慢のパンペイザンや、雑貨を提供している。友人たちが作る野菜を大切に、調味料まで手作りだという料理は、その手間さえも楽しんでいるかのようで、食材を口にするたびに心が喜ぶ。「自分の手の届く範囲のことを精一杯に大切にする」。そんな「生きるための術」を見た気がした。

人気はスキレットで焼く自家養鶏卵を使ったホットケーキと、妹が店の一角で日曜と火曜にだけ営む「山の下のパン屋」のパンペイザン。季節で表情を変える景色に囲まれ、里山の恵みを全身で味わうぜいたくさ。

山の麓の雑貨と喫茶

MY HOUSE

三重県いなべ市北勢町新町 1333
TEL：0594-72-4311
営業時間：11 時 ～ 17 時
定休日：木・金・土曜（土は不定休）
※ 鈴原山肉店の営業日も同上

暮らしの知恵を求めて

Quest for wisdom in life

kiwi は家族でいなべに移住してきた田端佳織さんが営む絵本と子ども道具の店。何より感動するのは絵本の世界をイメージした木造のぬくもりある店構え。木こりでパーマカルチャーデザイナーの夫・昇さんが木工作家の友人と２人で作り上げたというから驚きだ。森と暮らしがゆるやかにつながるこの場では、子どもたちは絵本や遊びを、そして大人たちは佳織さんが選ぶ食料品や生活雑貨、そして田端家がこの土地で実践しながら育んでいる「暮らしの知恵」を求めて、日々訪れる。

子どもの子どもの世代までずっと続いていく暮らし。kiwi はその実践の場だ。絵本が紡ぐ物語、店先に並ぶ有機野菜、庭の植物や動物の恵み、草木染のワークショップなど、そのすべてが、森と暮らしを循環させる。

絵本とこども道具

kiwi

三重県いなべ市藤原町市場 788-2
TEL：080-5101-7114
営業時間：10 時 ～ 16 時
定休日：日・月曜（月に２度日曜営業あり）

あのにぎわいをもう一度

Back to the hustle and bustle

江戸時代には濃州街道と呼ばれ、たくさんの商人が通い、栄えた「西町通り」。夜になると今でも街灯が、大西神社までの参道を美しく照らし、賑やかだったあの頃の景色を浮かび上がらせる。そんな「にしまち」に魅せられた中村紗也香さんが、いなべに移り住み夫婦で作り上げたのは、ベトナムサンドイッチと輸入雑貨のお店。夫婦それぞれの強いこだわりと、町を明るく照らす人柄もあって、オープン後まもなく「にしまち」を中心に、いなべに暮らす人たちに愛される店となった。

国内外たくさんバインミーを食べたけれど、目指しているのはある日ホーチミンの移動屋台で食べた名前も知らない“おばちゃん”のバインミー。2度と会えないかもしれない思い出の味が、2人の人生を押し進める。

バインミーと雑貨の店

にしまちバインミー

三重県いなべ市北勢町阿下喜 1116-1
TEL：0594-28-8446
営業時間：ランチ 11 時 ～ 14 時
雑貨販売 11 時～16 時
定休日：火・水・木曜（木曜のみ不定期営業）

暮らし味わうアイデアを

Savoring a lifestyle

いなべに点在する立派な日本家屋。時代が便利さを求めた結果、空き家となってしまう例は多い。しかしアイデア次第で、時にその負の遺産が宝物になる。「okudo 中村舎」もそんなアイデアで生まれた。いなべで空き家と移住者を仲介する仕事をしていた山崎基子さんがある日出会った中村邸には、奇跡的に昔ながらの「かまど（おくどさん）」が良い状態で残っていた。それに惚れ込み、2022年春、かつての豊かな日本の文化を感じながら、かまどごはんを楽しむためのお店を立ち上げる。

かまどで炊き上げたごはんに、その土地の食材や旬を合わせ、いただく喜び。古民家のぬくもりを感じながら、全身で味わう古き良き日本の暮らし。その一瞬一瞬が、贅沢な時間へと変わっていく。

古民家で食べるかまどごはん

okudo 中村舎

三重県いなべ市藤原町西野尻 1040
TEL： 0594-37-4014
営業時間：10 時半～ 17 時（お食事は要予約）
14 時半からはカフェ営業
営業日：土～月曜、祝日

1つひとつていねいに作られる饅頭やどら焼きには驚かされるが、手作りゆえに日持ちが短い。砂糖の量を増やせばもっと長くできるが、そこは上品で甘すぎない「味」へのこだわりが追従する。

いなべ菓子店

八舎

三重県いなべ市北勢町別名 186-1
TEL：090-4082-4071
営業時間：9 時 ～ 16 時
定休日：土・日・月曜（臨時土日営業あり）

好きをカタチにするチカラ

Giving shape to a fancy

いなべの中心地・阿下喜に魅せられ移り住み、菓子店「八舎」をオープンした宇野尚之さん。老舗の和菓子屋で修行を積んでいた当時から創作の原動力になっていたのは「和菓子が好き」というまっすぐな想い。自信作は独特の食感が人気の「かりんとう饅頭」と和菓子の定番「どら焼き」。自然の恵み溢れるいなべの食材を少しずつ取り入れながら、アイデアを模索する日々。しかし「自分らしさ」というのは決して忘れることはない。

アートな“いなべ”旅

視点によってその美しさが変わるのがアートなら、いなべの日常にもアートがある。
ここでは、いなべに暮らす 20 人によるアートな風景をご紹介。

いつも笑顔でいられる理由

空気と星がきれいで自然に人とあいさつができるところ。私がいつも笑顔でいられる理由は、地元の人と関わりながら仕事をし、大好きないなべで生活ができているからです。

栗井晴香さん（いなべ市商工会）

私の感性を揺さぶる存在

私にとっての身近なアートはいなべの図書館です。感性を揺るがすものがアートなら、本に囲まれた図書館はアートそのもの。心が動く、気持ちが変化する、そんな体験の入口です。

伊藤千夏さん（図書館職員）

視点を変えてみよう

よくある風景でも、いなべは、季節・時間によって色々な表情を魅せてくれます。「価値観」という視点を少し変えて「いなべトレック」を楽しんでみると、新しい出会いがあるはずです！

オカメのオーさん

私だけのシャッターチャンス

ファインダー越しの景色はまさにアート。ガードレールに干された大根、商店のレトロな看板、軽トラに乗る柴犬…いなべの全てがフォトジェニック！私だけの 1 枚が撮れる街です。

清田若菜さん

いなべは季節で彩りを変えるギャラリー

春は梅林公園の梅、勝泉寺の枝垂れ桜。夏は青川峡、宇賀渓、員弁川で水遊び。秋は聖宝寺の紅葉。冬は鈴鹿山脈の雪化粧。1 年中楽しめる自然豊かないなべの景色が大好き。

くーちゃん（保育士）

いなべ わが町 藤原岳

春は稲苗に豊作を促がす雪解け水の恵み。夏はカエル合唱団のハーモニイ。秋の錦織りなす紅葉の一大パノラマや、白銀の世界へ招く冬の里一面の積雪が美しい、偉大な藤原岳。

越尾憲吾さん（炭焼き職人）

いなべの魅力を地域に発信！

16:9 の目線でいなべの魅力を撮影し毎週 600 秒で紹介。空気がきれい。食べ物がおいしい。みんなの心が温かい。そんな素敵な街に癒されながら 18 年。最高の 1 秒をこれからも。

末松範子さん（「いなべ 10」ディレクター）

新しい挑戦を受け入れてくれる町

まだまだ少数派といわれる主夫である私。
子育て・家事・ウクレレ演奏を楽しむ、そしてそれを伝えることがライフワーク。それを実現できるのがいなべでの暮らしなのだ。

ちーパパさん（ウクレレ講師）

決して見飽きることのない山々

日本海や琵琶湖から流れる（と思う）湿った空気が藤原岳を擁する鈴鹿山脈の山肌にぶつかり作り出される荘厳な景色。演奏で日本中を巡りましたがこれに勝る芸術はありません。

ちくうにくん（音楽家）

四季折々の竜ヶ岳

私が育った小学校の校歌でも歌われる竜ヶ岳。夏になると緑が生い茂り、秋になると紅に染まり、冬はキャンバスのような雪景色！まさに自然の奏でる芸術です！

天さん（地元高校生）

東海環状がつながりつつある現場

ジャンクション萌えやインフラマニアに通じる感覚だと思いますが、いなべは高速道路が建設中で、そのうちその環がつながって輪っかになります。つまりここは円環の「最先端」！

堂々庵さん（高校美術教員）

私も誰かのアート作品の中に

山を見る、木々を見る、畑を見る、家々を見る。いつか誰かの絵画で見たような気がしてくるいなべの景色。そして、わたしも他者の見る絵画の風景の一部になっていると感じられる場所。

tomi さん（とわでざいんデザイナー、衣服修繕家）

当たり前にある幸せ

自然豊かなこの街で、珍しいものがあればおすそ分け、困っていれば助け合い、嬉しいことは分かち合う。昔ながらの人と人との繋がり、温かさ。そんなふるさとが私は好きです。

畑中美奈子さん（いなべ市社会福祉協議会）

人の営みがつないできたアート

削られた藤原岳と四季の移り変わりがなんともアート。人と人が繋がって何もないゼロの状態からイベントや店舗が生み出されるのは間違いなく他の何にも変えられないアート。

日置祐人さん（Gold Pit ヘアスタイリスト）

時間や季節によって変わる車窓

三岐線の車両の一番後ろから運転席越しに見るいなべの風景が好きです。藤原岳の麓からだんだん遠ざかり、広々とした田園や街並みが見えてくる季節の風景は私の心を掴みます。

藤井郷恵さん（いなべエフエム パーソナリティ）

土の味がするいなべの野菜

甘くてもちもちのお米。都会じゃ味わえやん野菜本来のうまみや、土の味。それらを、ここいなべで作ってくれるおじいちゃんおばあちゃんの存在がもうアートです！

ふじたさん

店主の顔が見られる路面店

店先に並ぶ、店主の“好き”が詰まった商品たちはまさしくアート。また、想いを込めて作られたものを、素敵な空間でいただけるお店がいなべ中にたくさんあるのは最高です！

藤田るりさん（株式会社 ATIS 編集者）

それを守るひとたちがいるから

ホタルの無数の瞬きをはじめ、いつまでも眺めていたい景色に見守られているいなべでの暮らし。いなべの魅力を再発見できるよう自然や歴史についてご教導下さる方々に感謝。

ホタルの光をいつまでもさん（いなべ市観光協会）

小さな町を自然が染めていく

私が通っている放課後児童クラブの近所の景色がスキです。特にジャングルジムの横の満開の桜と、秋の夕焼け。夜の杉林の間からのぼってくる満月もとてもきれいでステキです。

前村ミユキさん（放課後児童クラブさくらんぼ）

心も体も元気になる場所

僕がアートだと感じる場所は、いなべ公園です。遊歩道や噴水の景色がきれいで、眺めていると気持ちが落ち着きます。時々、自転車で公園に行ってリフレッシュしています。

水谷一平さん（cafe Rob いなべ店 スタッフ）

アートがいなべを明るくする

A town brightened by art

最近、いなべに暮らす人たちが営むアートスペースが増えてきている。それはただ「作品」を鑑賞する場所ではなく、そこに集う人たちの、世代を超えた交流の場であり、いなべの暮らしそのものを楽しもうとする人たちの発信の場となっている。「あそこに行けば誰かに会える」。それはいなべにはじめて訪れた人たちにとっての旅のプラットフォーム。出会いの場なのだ。

いなべの里山の不思議

Inabe's Mysterious Satoyama

三重県指定天然記念物

篠立の風穴

※許可なく立ち入ることはできません。

撮影：千葉伸幸（地底旅団 ROVER 元老院 代表）

その誕生は数十万年前と推測される「篠立の風穴」。主に石灰岩でできた洞窟だが、時折、暗闇の中で神秘的な輝きを放つ「鍾乳石」が姿を現す。そこから落ちた水滴が再び結晶化し、何千、何万という時間をかけて隆起することでまた新たな鍾乳石が生まれる。まだ電気のない江戸時代に、果敢に探検を挑んだ先人たち。壁に残された記録は天保九年（1838年）のもの。いつの時代も変わらないロマンを感じることができる。

語り、継ぐ、ということ

いなべの里山には、美しい自然だけではなく、そこに暮らす人たちの知恵や技が今も息づき、理屈では説明できない想いや祈り、時が刻んだ風景を語り継いでいる。そんな「不思議」と出会うことも旅の醍醐味。ここでは、いなべの里山で語られるいくつかの物語を紹介する。

里山で喫茶店を営む高橋賢次さんの話は、訪れた人たちを時空の旅へと連れ出す。いなべの歴史はもちろん、裏山の山賊から江戸時代の伊勢参りまでを現代に蘇らせる語り部だ。そんな賢次さんが今回案内してくれたのが「篠立の風穴」。かつて産業で栄え、時代の流れとともに廃墟となった地の片隅で、変わらずに千年の時を、静かに刻んでいる鍾乳石の眠る洞窟だ。暗闇に浮かぶ鍾乳石は、いくら時代が移っても、変わらないことの切実さ、そして淡々とした日々さえも愛しく思える「強さ」を教えてくれた。喫茶「山びこ」に行けば、今日も賢次さんがいろいろな話を聞かせてくれる。

100 種類 4000 本の梅の木が咲き誇る

いなべの高齢者が生きがいを持って暮らせるようにと、その豊かな自然環境を活かし市が民間と整備してきた農業公園は、東海地区きっての梅の名所として、たくさんの人が訪れる場所に。展望台からの景色は圧巻。

いなべ市農業公園 梅林公園

三重県いなべ市藤原町鼎 717
TEL：0594-46-8377

元祖 !? 焼きそばチャーハン

そんな賢次さんが営む喫茶店「山びこ」といえば元祖「焼きそばチャーハン」。創業当時、従業員のまかないとして考えた賢次さんによる思いやりと優しさの詰まった味だ。

軽食 山びこ 三重県いなべ市藤原町篠立 1098　TEL：0594-46-3044　営業時間：9 時～20 時頃　定休日：金曜

いなべ、暮らしを旅する。

いなべまでのアクセス

開いた地図は旅の入り口

Accessing Inabe

豊かな自然と暮らしやすさを兼ね備えたいなべ市は名古屋から車で約１時間ということもあり人気。三重は多くの府県に隣接しているので、目的次第で様々な旅のプランを組むことができる。

例えば愛知から車でフェリーに乗り三重（鳥羽）へ。ガイドブックに載らないアクセスの１つ。風光明媚な伊勢や志摩、そして松坂や鈴鹿などの観光地をめぐり、いなべを目指すのも手だ。

遠回りさえも楽しむ

Pleasure even in detours

少しの遠回りは“自分”と向き合う時間に変わる。誰かと一緒なら、それは静かにゆっくり向き合う時間に。車窓を流れる見たことのない景色に感動したり、切符の買い方がわからず右往左往したり。思いも寄らない「より道」が、次の旅の道標になる。

公共交通機関利用

STEP 01 新幹線で名古屋駅まで

新大阪駅 ― 約 50 分 ― 京都駅 ― 約 35 分 ― 名古屋駅 ― 約 1 時間 35 分 ― 東京駅

STEP 02 名古屋駅から阿下喜駅（いなべ）へ

名古屋駅 ― 近鉄特急 約 20 分 ― 桑名駅 ― 徒歩 約 7 分 ― 西桑名駅 ― 北勢線 約 54 分 ― 阿下喜駅

※ 名古屋駅・桑名駅からレンタカーもご利用できます。

OTHER 桑名駅から阿下喜駅までの路線バス

三重交通「桑名阿下喜線」で阿下喜駅まで約１時間

車・レンタカー利用

※ いなべ市街地まで

名古屋から … 約 1 時間（50 km）
京都から … 約 1 時間 30 分（110 km）
長浜から … 約 1 時間 20 分（56 km）

— 空港からレンタカー

中部国際空港から … 約 1 時間 15 分（76 km）
関西国際空港から … 約 2 時間 30 分（195 km）

いなべに泊まる

Stay in Inabe

いなべの町宿

ただいまと言いたくなる宿がある

自分らしい旅を実現するのに魅力的な「宿」の存在は欠かせない。
ここでは、いなべの魅力を感じられる２つの町宿と、話題のキャンプ場を紹介する。

名前の由来にもなっている古木は宿の庭先に。樹齢もわからないほど高く成長した荘厳な趣きだ。宿で過ごしていると、やさしく見守られているような気がするから不思議だ。

三岐線の終着駅「西藤原駅」は藤原岳の登山口として多くの観光客を迎え入れてきた。「最盛期には西藤原にもいくつかの宿があった」と話すのは、幼い頃から楽しそうな登山客の姿を近くで見てきた石川理栄さん。「あの時の賑わいをもう１度」という思いで、世代を超えた地域間交流の場としての町宿を新たにオープンした。海外を旅した時、例えどんな辺鄙な地でも、旅人をあたたかく迎え入れてくれる宿があった。その記憶を糧に旅の玄関口「西藤原」で、旅人が訪れるのを心待ちにしている。

世代を超えた交流の場

民泊 nico

三重県いなべ市藤原町
大貝戸 1498－1
TEL：090-8302-2783
１名につき 3500 円～ 5500 円
※ 最大７名まで利用できる
貸し切りの宿になります。

「いなべのことをもっと知りたい」。古民家を改修したゲストハウス「古木のある家」を営む小高さんは次第にそう思うようになった。和の心を大切に、昔ながらの暮らしを体験できるこの古民家に国内外から旅人を受け入れはじめたのは 2019 年。右も左もわからず手探りではじめた宿だったが、その珍しさからか徐々に話題となった。原動力は、代々受け継がれてきたこの家を大切に残したいという願いと、もっといなべを知り、いなべの魅力をたくさんの人たちに伝えたいという熱い思いだ。

古民家の暮らしを体験

古木のある家

三重県いなべ市北勢町東村 411
TEL：080-5317-8400
チェックイン 15 時～
定休日：不定休
１名につき 6000 円から

いなべ、暮らしを旅する。

豊かな自然の恵みと調和する

いなべのキャンプ

Inabe Camping

キャンプ場で懸念される水回りの設備だが、サニタリー、トイレ、キッチンなどの水回りがきれいと評判だ。家族連れだけではなくソロキャンプや２人での利用も多い。

満天の星を眺めながら

On a night spent looking up at the starry vault

青川峡キャンピングパークが、初心者はもちろんキャンプフリークから愛される理由はいくつかある。まず名古屋から高速道路を使って１時間で大自然に囲まれるというアクセス。いなべの市街地に 10 分で行ける距離でも、緑は濃く、パーク内を流れる青川も清らかで、子どもたちが安心して遊べるのも人気の理由。キャンプ用品のレンタルも充実。寝具や食器なども完備された屋内施設もあるので、手ぶらでも自然とバーベキューを楽しめる。満天の星が見えるアウトドアホテルとして、いなべの旅の宿の選択肢に入れるのも悪くない。

青と緑に囲まれた自然体験を

青川峡キャンピングパーク

三重県いなべ市北勢町新町 614
TEL：0594-72-8300

いなべの豊かな自然資源「宇賀渓」と共鳴する世界観

Nordisk Hygge Circles UGAKEI

デンマーク発のアウトドアブランド「ノルディスク」がプロデュースするアウトドアフィールドが、2022 年オープン。コンセプトは「Hygge（ヒュッゲ）を描く」。北欧に根付く「Hygge」とは、心地のよい時間と空間、体験などを通して、幸福感や癒しを得るという価値観。自然豊かな宇賀渓から、たくさんの人たちにいなべの魅力を発信する。

三重県いなべ市大安町石榑南 2999-5
問い合わせ先：0594-86-7833（いなべ市役所商工観光課）

人生に、野遊びを。 by Snow Peak

現在、いなべ市では、キャンプ・アウトドアメーカー Snow Peak と連携し、「いなべ市農業公園梅林公園」に野遊び拠点の整備を計画している。いなべに暮らす人たちが日頃から大切にしている自然・文化・食・歴史などの地域資源を活かし、さらなる地域交流や周遊の創出を目指す。